

広島県教区だより

第5号 Web版

平成23年12月29日

入門式・達磨祭の実習が県教区研修会で行われました。

平成23年12月4日に武専授業の後で、広島県教区研修会が行われました。

研修会は五回目となります、今回は実習です。

坪井事務局長の進行により始まった研修会は、広島県教区長瀧本先生が導師となり、入門式・達磨祭の実習が行われました。

今回の実習は、僧階レポートとして提出が可能であると説明があり、実習の重要性が示された後、門下生を新入門者に仕立てての入門式の実習が行われました。

祭壇を構成する「具足」の説明があり、花を挿す「華瓶（かびん）」・燈明を立てる「燭台（しょくだい）」・香を焚く「香炉（こうろ）」、「華瓶」・「燭台」の各2個を一対とし、「香炉」の1個と合わせて5個を「五具足」とすると解説されました。会場の都合により香を薰じることができないので献香は出来ませんが、「儀式要領」に則り進行しました。

「教典唱和」は時間の関係で省略しましたが、「表白文奉読」、「誓願文奉読」が行われ導師の動きや心構えなどを細部にわたり指導されました。引き続き「入門者紹介」、そして「導師法話」では、入門者が思い出に残る話をする必要と説明があり、また、以前行われていた盟盃の話や、入門式の思い出など参加者を交えて討議が行われ、建設的な意見交換がなされる有意義な実習となりました。

続いて、達磨祭の実習も同様に行われ、厳正な実習のなかにも心が和む研修会となりました。

前年の教区研修会で、中国地区総代の鈴木義勝先生が『礼拝施設があるところで、新春のつどい・開祖法要・入門式・鎮魂行を行ってこそ道院といえる。金剛禪布教者として自己の向上に努めて、生涯修行しなければならない』と講話されたことと連動して意義ある研修会となりました。



編集責任者
広島安芸道院長 藤岡 操

misaohan330@hi.enjoy.ne.jp
Mobile 090-3172-0608